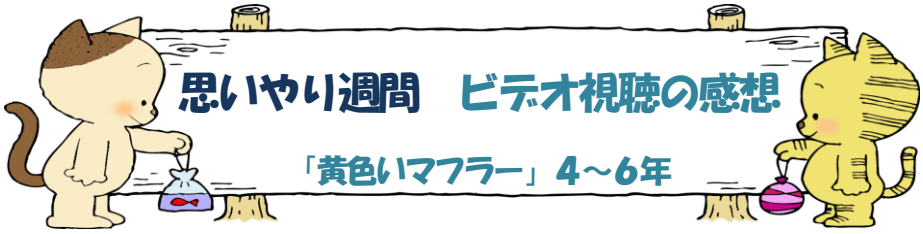

思いやり週間　ビデオ視聴の感想

「黄色いマフラー」4～6年

第７号の紙面の都合上、遅くなってしまいましたが、第６号の下学年の感想に続き、上学年の感想を掲載します。上学年の感想は長いので、一部を抜粋して掲載させていただきます。

４－１　ＭＲ

わたしは、無理やりいやな役をおしつけるのは、だめだと思います。それに、ヨースケが負けるまでじゃんけんをするのは、いじめだと思います。それでも、年賀状で、おたん生会にさそうとは、どれだけ心が優しい人なんだろうと思いました。２人に「ありがとう。」と言えるのは、せっかく話をしてくれた人を、手ばなしたくなかったからだと思います。ヨースケの心は、100 年に一人のすてきな心の持ち主です。

４－２　ＭＳ

わたしは、友達とは、こまった時に協力することができ、心がわかちあえる関係だと思います。ヨースケとシンイチは、最後は本当の友達になれたと思います。それは、ヨースケのお母さんから、「ヨースケは、本当の友達だと言っているのよ。」と言われて、ヨースケの気持ちや思いを考えられるようになったと思うからです。わたしは、これから、人の気持ちを考えたり相手の表情をよく見たりして、せっしていきたいです。

４－３　ＵＲ

最初は、ヨースケがいじめられていて、かわいそうでした。ヨースケのお母さんに注意されてから、いじめはなくなったけれど、話したり遊んだりしなくなったので、これからどうなるのかと思いました。最後に、みんなであく手できてよかったなと思いました。みんなで助け合って、相手の気持ちを考えていれば、やさしい気持ちになると思いました。

５－１　ＳＫ

ヨースケは、シンイチとヤスオ以外の友だちがいなかったから、どんないやなことをされても、一人になるのがこわくて、「いやだ。」とは言えなかったのかもしれない。だからわたしは、ヨースケがかわいそうだと思った。でも、最後のお別れの時、二人の気持ちは変わった。それは、自分たちが悪いことをしていると思ったからだ。だから、最後だけでも、ヨースケによいことがしたいと思ったのだと思う。ヨースケも「本当の友達」ができたから、悲しかったけれどうれしかったと思う。

５－２　ＨＮ

ヨースケに、いやなことをさせていたシンイチとヤンチだったけれど、本当はとてもやさしくて、友達と仲良くできる子なんだなと思いました。それは、ヨースケがひっこしてきたばかりの時、一緒に帰ったり、遊んだりして、一人ぼっちにさせていなかったからです。それに、ヨースケが学校に来なくなってから心配をしたり、様子を見に行ったりしていたからです。こんなことができるのは、本当の友達だなと思いました。

６－１　ＴＳ

弱いヨースケに、ひどいことばかりするのは、やっぱりよくないと思いました。シンイチとヤスオは、遊び半分でやっていたけれど、ヨースケのお母さんに言われたことで、ようやく自分たちのやっていることに気付いたから、もう二度とやらないと決めたと思います。ヨースケのお母さんは病気なのに、二人にもヨースケと一緒の水色のマフラーをあんであげたところに、とても感動しました。私も、優しい心をもたなくてはいけないなと感じました。

６－２　ＫＨ

シンイチとヤスオは、２学期の間に仲直りできなかったことをこうかいしていると思います。いやな役を自分におしつけられても、シンイチとヤスオを友達だと言ったヨースケは、一緒にいるだけで、楽しかったのだと思いました。でも、いやな役をおしつけていなければ、もっと仲良くなっていたと思いました。いやな役をおしつける人は、ふざけているつもりでも、おしつけられた人はいやな気持ちだと思います。相手の気持ちを考えることは、大切だと思いました。

６－３　ＦＮ

わたしがこの話を聞いて思ったことは、もし、妹や友達が、ヨースケのようにいじめられていたらどうするかということです。ヨースケが私の知っている人だったら、私はその人を助けたいです。友達にきらわれたくなくて、無理にやっているのはかわいそうだし、かまってくれてうれしいと思っていても、「それはちがうよ。」と教えて、いじめている人に注意をして、みんなが平等になるようにしたいと思いました。